

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立城南高等学校

自己評価
学校運営計画(4月)
学校運営方針
進取の気象を有し、明朗にして端正で、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成を目指す。
昨年度の成果と課題
年度重点目標
具体的目標
1 新時制の施行と改善
2 働き方改革のための選択制勤務の推進
3 効果と効率を高めるためのオンライン教育・指導の研究
4 進路学習と課題研究(ESD探究)の両立を図る「総合的な探究の時間」の開発
5 様々な事態に対応できるレジリエンスの育成
6 学校行事、ホームルーム活動、部活動等の充実
7 SSH、即興型ディベートの推進
8 感染対策を含めた安全安心な学校環境の整備

学校関係者評価
評価(総合)
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
A

評価項目
具体的目標
具体的方策
評価(3月)
次年度の主な課題
教育推進部門
教務
授業改善
教育課程の開発
業務内容の電子化
図書
庶務

項目ごとの評価
学校関係者評価委員会からの意見
A
コロナ禍以前であれば、アクティブ・ラーニングなど、生徒同士で意見を活発に交わせたが、今はなかなか難しい状況である。しかしながら、先生方がICT活用などいろいろと工夫している。逆境をプラスに変えていけるよう頑張ってもらいたい。
A
SNS情報が生活の中で大きな比重を占めるようになった。しかし、一人ひとりが実際に本を選書し、紙に書かれた文字を読むことは、作者との「対話」としても重要である。今後も、生徒の「読書」活動を奨励していただきたい。

生徒育成部門	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・時を守り ・場を清め ・礼を尽くす	5分前行動の精神を徹底し、余裕を持って行動させる 清掃活動等を通じて学習環境の整備と物を大切に育む心 の育成 学校内外で心のこもった大きな声で澁刺とした挨拶の励行	A A B	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学校行事をはじめとした時制の変更や部活動の制限など生徒にとって様々な対応を強いられる1年となったが、そのような中でもほとんどの生徒が落ち着いて学業その他に励むことができたことは、先生方の日々のご指導と生徒たちの努力のおかげと感じている。しかし、学校行事が十分に行えなかったことは、本校の伝統の継承という観点から損失が大きい。各学年におけるリーダー育成や、縦と横のつながりの強化が課題となるので、今後の教育活動のあらゆる場面でこれらを意識した生徒育成に取り組む必要がある。	A	
		安全指導の徹底	・命の大切さを理解させる ・地域の模範となる生徒の育成 ・安心して生活できる環境づくり	他者の人格を尊重し、周りに配慮できる人間力の育成 公共の場で社会規範を踏まえた行動をできる力の育成 さまざまな活動場面での安全点検の実施	A B A	A				
		生徒の主体的活動の支援	・行事や部活動への積極的参加 ・生徒会役員の育成と各委員会の活性化 ・城南生としての誇りと自信の育成	学校行事や部活動を通じて自己有用感と自己肯定感を育成する 生徒会・部長会・各委員会を有機的に連携させる 学年と学年を超えた結束を強め、「城南魂」の伝統を継承する	A A B	A				
		端正教育の徹底	・端正な身だしなみと心構えの育成	常に校訓を踏まえた心構えができるようにする	A	A				
		支援が必要な生徒への指導体制づくり	・悩んでいる生徒への早期対応 ・面談を複数回実施 ・スマホ使用のモラル向上	小さな変化を見逃さないようにし、面談等で信頼関係を構築する 正しいスマホ使用ができるように物事を判断する力を育成する 相談ポストの有効活用を行う	A B A	A				
		保健管理	生徒の心身の健康維持	生徒が心身ともに健康な日常生活を送ることができるように支援する	感染症に対する正しい理解と判断力、行動力を身につけさせる 保健だより等を活用し公衆衛生についての理解を深める 保健室利用生徒及び心理的に不安を抱える生徒の状況の把握と問題解決に向けての支援に努める	A A A				A
	美化意識の向上		学校全体での美化意識の向上を図る	日常の清掃活動を積極的に取り組み、協働する力を養う	A	A				
	委員会活動の活性化		委員会活動を全校生徒へ拡大する	クラス委員（保健委員、整美委員）から保健活動および美化意識への呼びかけを充実する 高等学校保健会等の諸行事を中心に積極的な参加を促し、他校との交流・意識の向上を図り校内での活動を通じて還元させる	A B	A				
	特別支援教育の充実		特別支援教育の充実を図る	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の整備を行う	A	A				
	進路指導		新時制の施行と検証、学力の充実	新時制の施行に伴う授業・課外授業のあり方についての研究と学力の充実	新時制に合わせた、新たな進路指導展開のあり方の改善 3年間を見越した教科的な進路指導計画の見直し	A B				A
		「ESD探究」の改善と推進	進路学習と課題研究の両立を図る学校設定科目「ESD探究」のカリキュラム開発	学校設定科目「ESD探究」のさらなる改善、企画立案 外の世界を知り体験するためのプログラムを開発する	A B	A				
		進路目標の明確化と粘り強い姿勢	高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成	ゆるぎない第1志望の確立と、その実現に向けた粘り強い行動 学校推薦型選抜入試・総合型選抜入試に向けた適切な指導	A A	A				
		広報	本校の魅力発信と本校に対する評価の収集	中学生への広報活動を、保護者や学校関係者に対する働きかけと合わせて行う。	感染対策を施し、可能な形態での中学生体験入学を実施する 学校HP更新の迅速化をはかる。 中学生、保護者、学校関係者の心をつかむ学校案内等を作成する	A A A				A
	他の分掌や教科と連携した広報活動		SSH、理数コース及び部活動に関する広報内容を充実させる。	第4・第5・第6学区の中学生進路相談事業へ参加する SSH部と連携し、中学生理数セミナーを実施する 出前授業や講演の機会を積極的にとらえる	A A A	A				
	SSH		理数コース関連事業の充実	学校設定科目の開発・充実と理数コース関連の行事の開発を行う。	先端技術体験講座における連携大学との連絡調整を密にする 学校設定科目「理数ゼミⅡ」及び「理数DS」の内容開発を行う 中学生に向けた理数コース体験講座を実施する	B A A				A
			授業改善の促進と課題研究を軸にしたカリキュラムマネジメントの検証	探究活動・協働活動を中心とした主体的・対話的で深い学びの実践を増やす。	「身につけさせたい力」とその項目を指導目標として教員間で共有する 授業に関する各種アンケート結果と分析を教員にフィードバックする 授業実践の早期集約と教科間の内容連携の分析を行う	A A A				A
		事業評価に関する方法の検討	SSH関連のアンケート結果を年度別で比較分析を行う。	教員アンケートの回答数の増加を目指した実施方法の工夫を行う 昨年度の結果との比較分析を行う 感想文等の自由記述について専用ソフトを用いた詳細分析を行う	B A A	A				
		研修	本校の教育課題に即した職員研修の充実	授業改善の一層の推進と職員間における情報や技術の共有	各分掌のニーズに応える校内研修の企画と実施 授業研究期間を中心とした研究授業・相互授業参観の充実 校外研修情報の積極的な提供	A A B				A
	社会参画の力を育む教育プログラムの充実		社会の多様な課題に対応した教育プログラムの実施	各学年ごとのテーマに沿った人権教育プログラムの企画と実施 3年間を通しての主権者教育プログラムの推進 教育実習の組織的で円滑な実施	A B A	A				
	A		生徒指導	生徒指導をはじめ、先生方が頑張っていることを評価している。一方、生徒の自転車通学マナーについて、雨天時など交通法規を遵守できていない姿がある。城南高校の先生方にも通学マナーの指導について協力をいただいているが、特に新入生入学直後や各学期始めの指導を重点的にお願いしたい。また、コロナ禍により、学校行事がなかなか思うように実施できない状況だと思うが、1年生と2年生、2年生と3年生など「縦のつながり」を大切にしてもらいたい。そして、生徒が卒業後も、「在学中のあの先輩、あの後輩の姿が頭に浮かぶ」学校であってほしい。	A					
			保健管理	昨年引き続き、こまめな消毒や定期的な換気、三密の回避など新型コロナウイルス感染症拡大防止が求められているが各教室に手指消毒薬や二酸化炭素濃度測定器などが常備されており、城南高校では生徒が安心して生活できる環境づくりに努力している。また、コロナ禍で心身の不調を訴える生徒も増加しているようである。スクールカウンセラーによる生徒の心のケアについて、今後もさらなる充実を図っていただきたい。						
	企画推進部門	A	進路指導	様々な制約により実施できなかった進路行事を絶やすことなく、新入試に向けた進路指導計画を作成する。また、学校設定科目「ESD探究」において確立した、ICTを活用したポスター作成、論文執筆、添削指導の方法を全職員へ広げる。	A					
			広報	コロナ禍により当初予定の中学生体験入学の通常実施は困難だったが、オンデマンド方式により中学生や保護者等への情報発信を行うことができた。次年度は感染対策を十分にふまえ、ICTを活用した体験入学を対面で実施したいと考える。						
		A	SSH	大変、先進的な授業や、興味深い実験などに城南高校では積極的に取り組まれている。他校ではなかなかできない体験講座や、中学生向けのセミナーなど魅力に満ちた高校だとあらためて思う。これらの様子についても、さらに積極的に発信してもらいたい。	A					
研修			城南高校では、ICT活用やLGBTQに関する研修など、教員として必要とされる資質・能力の向上のため、常に先駆けた内容の研修に取り組んでいる。それらが、安心して学べる魅力的な学校づくりにつながるよう、生徒への還元にも努めてほしい。							

学 年 部	第 1 学 年	基本的生活習慣の確立	きちんと出席をし、時間に遅れずに準備や集合ができ、挨拶、礼節を重んじる心の育成	出席奨励指導の徹底	A	A	A	基本的な生活習慣の確立を目指し、7:40登校奨励と誰にでも等しく挨拶できる人物の育成に注力した。感染症対策を含め当たり前のごとくに全力で取り組み、自他共に大切にしたい。学校行事において未経験の部分がある中で城南高校の伝統と文化を継承し、覇気に富む生徒を次年度も育成したい。			
		授業の充実と学力の向上	充実した授業を実施し、授業を中心において予習復習を行わせ学力を向上させる	5分前準備・集合・点呼完了の精神の徹底(授業、集会) 挨拶の励行	A A				A		
		人権教育、道徳教育の充実	安心して過ごすことができ、能力を高めたり鍛えたりできる、気持ちの良い学びの場づくり	充実した授業の実践、及び学ぶ意欲の喚起 家庭学習時間(予習・復習・課題)の確保 学習と部活動・生徒会活動・学校行事の両立	A A B						
	基本的生活習慣の確立	安定した学校生活における達成度の向上	いじめを絶対に許さない雰囲気の醸成 自他ともに大切にできる生徒の育成 全教科・全領域における人権教育的視点に立った指導の徹底	A A A							
	第 2 学 年	授業の充実と学力の向上	学習意欲の喚起と主体的な学習姿勢の確立	基礎・基本の定着 主体的な学びを育む授業の展開 学習到達度に応じた指導の充実	A A A	A			A	基本的な生活習慣を確立させた上で、生徒の成長に合わせた行事の在り方やリーダー育成が必要である。学業、部活動の両面において生徒がイメージする3年生像と教員が望むもの間に大きなギャップが生まれないよう、コミュニケーションを密に取ることがこれまで以上に要求される。強固な信頼関係を築き、生徒全員の進路実現を目指す。	
		進路目標の明確化	学校行事を活用した進路意識の向上	進路学習や面談等を通じた進路意識の喚起 自分の進路を主体的に模索する姿勢の育成と、志望の明確化 ESD研究と進路学習を両立させたドリカム教育の更なる充実	A B A						
		進路実現に向けた授業の充実と学力の向上	授業の充実と学習意欲の育成	主体的な学びを育む授業の実践	A						A
				生徒同士が切磋琢磨できる環境作り	A						
				家庭学習の充実	A						
		自己管理能力の向上	最高学年としての誇りと自覚	自ら考え行動できる生徒の育成	A						A
	学業と部活動の両立・学校行事への積極参加			A							
	教師と生徒・保護者の信頼関係の構築			B							
進路目標に応じた適切な進路指導	強い意志と高い志をもつ進路意識の育成	広い視野と高い志を持った進路希望の実現	A	A							
		学校推薦型選抜、総合型選抜入試受験者に対する指導の充実	A								
		模擬試験等の有効活用	A								

A	第1学年だけでなく、先生たちが生徒の現在と将来のために頑張ってくれていることや、保護者とのコミュニケーションを大切にしてくれていることを評価している。高校時代までに、基本的生活習慣を確立することは、将来の社会人として大切な土台となる。幅広く「学び」を大切にしたい。
A	コロナ禍により、第2学年は入学時から様々な学校行事が制限されてきた。その中であって、1月の北海道修学旅行が実施できたことは、生徒にとって大きな喜びであり、大自然への畏敬の念や、級友との共感的人間関係を深めることができたと思う。教員と生徒との信頼関係を大切に、第3学年の飛躍につなげてもらいたい。
A	生徒の授業中の姿など、皆、真面目である。授業スタイルも大変新しく、教育現場の変化を感じる。生徒の進学実績も大切なポイントであるが、部活動練習や大会実績なども文武両道の実績をおさめており、素晴らしい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

○教務	令和4年度から始まる新学習指導要領にもとづき、観点別評価の円滑な実施を行う。また、オンラインを活用した学習支援についても工夫・改善を行い、生徒の学力保障に努める。
○生徒指導	コロナ禍により学校行事をやむなく制限せざるを得なかった。各学年のリーダー育成や、縦と横のつながりの強化など、これらを意識して生徒育成に取り組む必要がある。
○進路指導	学校設定科目「ESD探究」において確立した、ICTを活用したポスター作成、論文執筆、添削指導の方法を組織的・計画的に全職員へ広げる。

評価項目以外のものに関する意見	
新型コロナウイルス感染症が依然として猛威をふるう中、学校行事や部活動が制限されている。しかしながら、生徒たちはよく勉学に励むだけでなく、部活動で全国大会や九州大会出場など、輝かしく文武両道に取り組んでいる。	